

鳥取県学校図書館授業利用状況調査結果（平成30年6月実施）

図書館

【調査の目的と対象】

この調査は、教育課程に寄与する図書館活用教育を一層普及・推進するため、「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（以下ビジョン）策定3年目にあたり、学校図書館の授業利用状況を把握しビジョンの効果を検証することを目的として実施し、前回の調査（平成26年度の状況）との比較を行った。

市町村（学校組合）立小中学校（小学校125校、中学校57校、義務教育学校においては昨年度の小中学校の状況）を対象として昨年度の状況を調査した。高等学校、特別支援学校の図書館については、毎年県立図書館が行っている調査における県立高等学校（24校）特別支援学校（10校、鳥取大学附属特別支援学校を含む。皆生養護学校皆浜分校は平成30年度開校のため、平成29年度の状況については調査していない。）の調査結果を用いた。

【全体の傾向】

平成27年度にビジョンを策定し、ハンドブックによる学校図書館活用の普及をはじめ、学校図書館活用教育に主として関わる司書教諭、学校司書を対象に研修を行い、資質・スキルの向上を図ってきた。その結果、全校種で、授業で学校図書館資料を活用した時間数の増加が見られた。また、校種によって差があるものの、司書教諭や学校司書とのTTを行う学校が増えている。

一方で、年間授業計画を作成している学校が、前回の調査より中学校では15.4%、高校では7.2%、特別支援学校では67.5%増加しているものの、小学校では1%減少している。また、計画を作成しているが、部分的な活用であったりあまり活用されていなかったりする学校もある。新学習指導要領にも示されているように、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など、学習の基盤となる資質・能力を育成するには、学校図書館の機能を各教科の様々な場面で生かしていくことが必要である。そのためには、各学校が年間授業計画を作成し、学校図書館を計画的に利用しその活用を図ることが求められる。

【今後に向けて】

ビジョンに示したように、就学前から高校まで一貫した見通しをもって情報活用能力を身に付けていくためには、年間授業計画の作成と計画に基づく学校図書館の活用が今後の課題である。各教科領域等の具体的な学校図書館の活用に関する情報や、計画的に学校図書館を活用するための方法について、研修会等を通して周知していく必要がある。

また、今後さらに、校長のリーダーシップのもと各学校内での研修を推進したり、学校図書館活用に関する研修への参加を図書館関係者以外にも広げたりするなどし、全教科、全領域において、学校全体で図書館の活用を推進していくことが望まれる。